Initiatives of Change
一人ひとりのチェンジで信頼を築く

IC ニュース NEWS

Vol.30

公益社団法人　国際IC日本協会

発行年月日 2021年7月10日
発行所 公益社団法人 国際IC日本協会
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-28-20
パレ・エテルネル206号
TEL：03-6273-1428 FAX 03-6273-1429
E-Mail：info@iofc.jp HP：http://iofc.jp
<International IofC>HP：www.iofc.orc

頒価 1部 200円

三昧境に遊ぶ　会長 矢野 弘典

仕事でも、学校の勉強でも、スポーツや文化的な趣味でも、人並みのレベルになるには時間がかかります。ましてや、人並み以上となるのは容易なことではありません。

昔の人も、いかにして一流となれるか、その秘訣を探っています。『論語』の一節に、「知・好・楽」として知られた言葉があります。

☆これを知る者はこれを好む者に如かず。
　これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。

孔子の言葉で、弟子の質問に答えたものでしょう。「知っていることよりも好むこと、好むことよりも楽しむことがまさる」という意味です。何度読んでも、何歳になってもストンと心に落ちる言葉です。

受験勉強でも、続けている内に段々やらされ感の嫌々が薄らいできて、分かり出すと面白くなり、やがて熱中し始めるものです。若い頃の経験ですが、私は入社したての時に単純な仕事を命じられました。最初は詰まらなかったのですが、辛抱辛抱と言い聞かせている内に、次第に興味が湧いてきて、普段は見過ごしてきたことが良く見えるようになりました。世の中にはムダなことなど何もない、と気づかされた第一歩でした。

最近では、家の近所にある神社の掃除があります。家内に誘われて参加しています。銀杏の落葉は毎日降り積もって切りがないのですが、竹箒を振るっている内に熱中して、町内会の義務感は飛び去り、もっともっと、あそこもここも、という思いがつのるのです。汗ばみ、その後に飲む冷水の美味しさはまた格別です。

「楽しむ」とは、「三昧境に遊ぶ」ということではないかと私は思います。仕事に読書に趣味に没頭するときは、時間の経つのを忘れます。時間というものは、時計の針のような無機質な刻みではなく、長くなったり短くなったりするものです。嫌々やっている時の時間の長さ、気の合う人と会っている時の時間の短さ、これが生きた時間なのではないでしょうか。

横綱審議委員会の委員長として私は、力士の成長を見ています。普段の稽古をそれこそ「三昧境に遊ぶ」レベルで徹底し、本番では「普段の力を発揮するのだ」と自分に言える力士、そういう力士が伸びていくのです。流す汗は、必ず将来に実りをもたらします。

どの分野でも、「楽しむ」「三昧境に遊ぶ」日常を多く持つことによって、いざ本番で緊張感が極限に達した時に、人は平常心で自分の実力を最高に発揮できるようになるのでしょう。そういう達人の域に近づくのは、それこそ一生の課題だと私は思います。

第17回東北アジア青少年フォーラム開催について　理事 成 豪哲

本年度は、昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響より厳しい海外渡航に制限が掛かるなかで、オンサイトによる民間交流の実施が依然として難しい状況となっております。

そのような状況下で、コロナ時代の新たな試みとして、本年度は韓国 MRA/IC 本部主催で東北アジア青少年フォーラムをオンラインにより開催することとなりました。

今回のフォーラムの特徴としては、オンライン開催のほか、技術的問題から英語のみで意思疎通を図るということが挙げられるほか、参加者に事前ミッションが課せられ、今回のフォーラムに関する期待を述べたり主題に関する事前調査、所感文をアップロードすることが求められておりますので、事前準備がとても充実しているということができるでしょう。

また、今回のフォーラムの主題は、いわゆるソーシャルディスタンス、フィジカルディスタンスが取られつつも、インターネットとりわけ SNS により繋がるようにみえる「超連結社会と青少年」という時宜にかなったテーマであります。今回のフォーラムの参加予定者には過去のフォーラム参加者も含まれておりますので、フォーラム参加後の所感について追ってご報告させていただきます。

開催日程：2021年 8月25日～8月28日
主　　題：超連結（ハイパーコネクト）社会と青少年
副　　題：①不確実な未来に備える青少年政策とは
　　②技術革新に伴い未来の仕事に若者はどう対応していくのか
　　③学習環境の変革による教育格差に対する若者の解決策とは
　　④デジタル時代の若者の連帯と協力
参加人数：日中韓の大学生・大学院生　3カ国から各20名。

IC 協会の方向性「IC ビジョン検討委員会（仮称）」のスタート！　副会長・専務理事　足立 憲昭

皆さま、お元気にお過ごしでしょうか。2019 年に始まったコロナ禍が、未だ終息しないまま、2 度目の夏に入りました。ようやく高齢者へのワクチン接種が行き届いてきました。しかし、働く世代の 30 代 ~50 代の方々は、ワクチン接種がまだこれからの段階であり、「感染による重症化リスク」に十分お気をつけください。

第 10 期事業計画（令和 3 年 1 月 1 日 ~ 令和 3 年 12 月 31 日）も半ばが過ぎましたが、昨年同様に公益事業は、集まって開催することが叶いません。うれしいニュースとしては、学校訪問プログラム事業におきましては、有志の皆様の献身的な努力のお陰で、非常に素晴らしい「IC 学校訪問プログラム 18 年間の歩み」が完成し、会員の皆様へ届けられました。本当に、ありがとうございました。

これ以外にも、オンラインを活用した、「国際フォーラム準備会」や「IC チームミーティング」などが定期的に行われています。その努力に感謝申し上げます。国際的には、同じくオンラインでの「海外 IC メンバーとの交流」が定期的に行われ、「日中韓フォーラム」も英語によるオンライン開催が行われます。

さて、「未来の国際 IC 日本協会の方向性」を自由に話し合う、「IC ビジョン検討委員会（仮称）」が、2021 年 7 月 2 日からスタートしました。実は、この検討会は、2017 年～ 2018 年に有志が集まって、宿泊セミナー（富士カーム）や 1 日セミナー（お台場・四谷事務所）によって、心からの話し合いが行われて一定の方向性とビジョンの素案が纏まったものの、その後、" 事務局体制の変化"や"コロナ禍"に追われて、中断していたものの復活です。

今回は第一回目として「静かな時間」を持った後、基本ルール：出された意見やアイデアに批評や批判をしない、4 つの道徳標準（正直・純潔・無私・愛）に沿って、お互いに「自分の内なる声」をゆっくり話してもらい、周りの人々は、ひたすら耳を傾けて、聴くということで実施しました。これからも毎月 1 回定期的に開催し、私個人の想いとしては、未来の国際 IC 日本協会として、「変えなければならないこと」と「変えてはならないこと」を明確に打ち出し、全ての会員が参画して、自律的に社会貢献を実践していくための受け皿として、いつまでも継続していく道筋を見つけたいと願っています。

次回開催：2021年8月27日 20 時より（その後も毎月 1 回開催を目標とします）

カンボジアへの教育支援 ＜できることからはじめよう＞　監事　佐谷　隆一

私が２６年来に渡り関わっている NPO 法人団体での活動の一端をご紹介します。

優しい笑顔の国カンボジアで、悪政を強いたポルポト政権が崩壊しましたが、国の立て直しに私たちは何かお手伝い出来るか、子供たちが自立出来る様に教育支援から始めよう＜できることからはじめよう＞、ということでボランティアの支援活動を始めました。

しかし、学ぶ教室は破壊されてしまっている、それなら校舎を作ろうと皆さんに呼びかけました。

ある団体は５万人の仲間に一人１００円カンパを呼びかけて 5 教室 1 棟の贈呈に繋がりました。この活動は、さらに多くの方々にも共感を呼び、ご支援が広がり２８年間で子供たちに３８０棟の校舎を寄贈することができました。

発展途上国にはどこにもある実情ですが、地方の農村地帯では農業一筋で貧しく、子供たちも２~３年生で家の農業の担い手として働くため、学校を休んでしまう生徒が沢山おります。少しでも農村の暮らしが良くなれば子供たちは学校に通い勉強が出来る！

そこで家庭訪問をしました。ポルポト政権によって勉学を許されなかった時代に少年期だったお父さんお母さんたちは読み書きも出来ません。お父さんは本が読めれば農業改善の知恵を授かりもっと収穫が出来るように、お母さんは読み書き算数が出来れば街の商店や工場で雇ってもらえる、そして生活が楽になれば子供たちも学校へ行けるようになる、と考えて３年前から成人の為の識字教育を夜間の教室で開講しました。

しかし夜間のことなので、暗い夜道を歩いて通学せねばならず、教室には明かりが無いため暗がりの中です。そこで、日本のメーカーさんからソーラーランタンを寄贈して頂きました。

先生の費用や文具代は、ある団体から支援助成金を頂き運営しています。

この活動が農村地帯に広がり、少しでも豊かになって親も子も幸せな笑顔になれる日を夢見て、＜できることからはじめよう＞、この活動を続けます。

ランタンの灯る教室

2021年10月23(土)・24(日) オンラインIC国際フォーラム　理事　兼松　恵

「意識の改革」- みんなで築こう信頼の架け橋を

1921 年 英国オックスフォード大学の学生たちとフランク ブックマン博士が「心の声」に耳を傾け一人ひとりがその声に従うことを実践し、道義・倫理的視点から自らの生きる姿勢を正し、新しい世界を築く歩みを始めたMRA/現ICは、今年で100年目を迎えました。

また戦後から今日まで、多くの日本人参加者を迎え入れたスイスのコーの国際会議場は、75 年目の夏を迎えています。IC を通して、世界の多くの方々が日本の参加者も「心を鎮め、心の声」に耳を澄ませ、それぞれの新しい決意を分かち合い、アジア諸国・世界の多くの方々が、「日本が変わる !」と、日本の新しい歩みに心を寄せ、力になって下さって来た足跡を刻んでいます。

21 世紀のいま、MRA/ 現 IC のメッセージを私たちは次世代に伝えていけているのでしょうか？

昨年のパンデミック発生により、今年のフォーラムもオンラインでの開催 (参加費無料) となります。米国イリノイ州在住のラジモハン ガンジー氏による基調講演、スイス・コー村在住のアンドリュー スタリーブラス氏によるお話し、日本からは次世代に寄せるメッセージを寺島実郎氏、また「難民を助ける会」名誉会長の柳瀬房子氏の講演が予定されています。アジアの若手からは、学校訪問プログラムのメンバーとして来日し、帰国後はそれぞれのコミュニティーで IC の精神を持って、人々の心の成長のために尽くしているマレーシア、チベット / 韓国、二組の若手のご夫妻によるセッションもあります。学校訪問チーム、また日中韓フォーラムに参加した青年達がいま、信頼の架け橋を築こうと、それぞれの思いの発信も準備を進めております。

右が兼松氏

信頼のおける世界家族の一員として、まだまだ日本は変わり得る！　未来への絶え間ない努力の源は、私たち一人ひとりの心の中に秘められています。例え、家族・社会・世界の変化がすぐには起きなくとも、一人ひとりが「心の声」に耳を澄ませ、自分の役割を実行していくその一歩の積み重ねが、思いも寄らない大切な希望につながります。今年のフォーラムも、「心の声」に耳を澄まし、新しいエネルギーを見出す機会にしていただけるよう準備会チームで準備をしています。

皆さまのご参加をお待ちいたします。

IC資料のアーカイブ化について　監事　田中　章博

オックスフォード・グループとよばれた若者グループとフランク・ブックマン博士がIC(旧名MRA)活動を始めて 100 年経ち、世界各地にその活動資料(文書、写真、映像記録、音声録音、書物等の文化遺産) が存在しております。

その一部はスイスローザンヌ市立文書館、米国ワシントン国会図書館、英国オックスフォード大学(Bodeleian)図書館、デンマーク、スウェーデン、ドイツなどの公立文書館など公共機関に保存されているものもあります。

各地に存在する資料をデジタル化して世界中からインターネットで見られるようにしようという計画が、IC 運動にかかわって活動の一線をひいたヨーロッパ在住の人々の間で話し合われました。

世界 IC 協会評議会、総会でこの計画を承認し、2012 年 9 月 7 日財団法人「The Foundation for a New World」がスウェーデンに設立され、活動を開始しました。

財団法人設立資金はスウェーデン IC 協会が提供し、活動のかなりの部分はスウェーデン、スイス、英国の IC メンバーを中心にその他の国の IC メンバーも協力して、ボランティアで行われてきました。

しかし、資料のデジタル化、インターネット掲載など専門家に依頼する仕事やその他の経費については、英国 IC 協会とスェーデン IC 協会や個人寄付に頼ってきております。

存在する資料の言語数は３０以上になりますが、インターネット上に掲載する言語はとりあえず英、仏、スペイン、ポルトガル、スウェーデン語の 5 言語とし、将来的には１１言語を目標としております。

作業は現在進行中で 2021 年初頭より https://foranewworld.inf で公開された資料を順次みることができるようになりましたので、どうぞご覧ください。

今後も次々に新しい資料が加えられてゆく予定です。

日本に存在する IC 関係資料は、財団法人 MRA ハウス、当協会事務所、さらに永年 MRA/IC 活動に参加してこられた個人宅にも残っていると思われます。

将来これらの資料も上記サイト上に掲載され、世界中の人々に閲覧できるようにするのが望ましいと思います。

「チーム・ミーティング」　中嶋　良樹

IC 活動のひとつ「チーム・ミーティング」は IC の理念を基盤とし、チームの結束をはかるためメンバーひとりひとりが忌憚なく何でも話し合える会を目指し、月に一度(現在はオンラインで)行っています。

毎回、初めに静かな時間を持ち、それぞれの近況や思いをシェアし、その後、毎月のテーマに沿って意見交換をしています。例えば六月のテーマは「難民と移民について」でした。

日本 MRA (現 IC) 活動は１９５０年、戦後初の大型使節がスイス・コーの MRA 世界大会に参加した時から始まりました。それから７１年を経た現在、日本を取り巻く環境は大きく変わりました。

IC の存在、役割も変わってきていると思いますが、基本理念は変わらずチーム・ミーティングのあり方も同じです。

会員の紹介があれば誰でも参加でき、何についても自由に話し合える場であり続けるためには、特定の宗教や政治に偏らないこと、コーやパンチガーニに行ったことがないとか、英語が苦手でも違和感なく参加できる配慮が必要と考えています。

信頼の構築には時間がかかると思いますが、身近に信頼のおける友人がいることは心強いことです。 世界各地の友人との交流の一方、足元を見つめた地道な行動、この両方を大事にしつつ、現代社会の諸問題に向き合っていきたいと考えています。

皆様のご参加を歓迎いたします。

ある日のチーム・ミーティング
左から、中嶋氏・太田氏・加藤氏・中山氏

IC と私　　九州地区　土斐崎　由美

『日々の生活の中で何か１つ公の為になることをそしてそのために勉強しなさい』。

亡き恩師の呼びかけが私の IC 活動の始まりだった。恩師は様々な本や DVD を入手してきてはそれらを私たちに話して聞かせる。上映会を開催する。時にはお気に入りのゲストを呼んで来たり、偉人の研究をさせたり。どこから見つけてくるのか次から次に課題となるネタが与えられ、発表の場が設けられる。そのたくさんの話や映像の中で、相馬雪香氏やブックマン博士を知る。

私はたまに「この研究と IC は何の関係があるのか？」と疑問を持ちながらもとりあえず課題をこなす。何の関係があるのか？の回答は、自分の心に聴く形式。

そんな地味な勉強会を続けていたある日、全国から IC 会員を迎え九州で研修会を開催するとのこと。九州サークルメンバー一同大張り切り。

桃の節句。スイスコーからの絶景に一番似ている眺望を持つホテルを選び１泊２日の研修。私は IC のロゴと迎えるメンバーの国旗を作り空港へ向かった。到着口で IC の旗を見つけたメンバーが次々と笑顔で近づいて来てくれたのが嬉しくてたまらなかった記憶は今も鮮明。

私はこの研修会で初めて IC 精神とは何か？を知り、静かな時間を体験した。恩師は私たちがこれらを正しく理解する様にと機会を作ってくれたように思う。

それから毎年、九州で研修会を開催することとなり、それに向けての１年が楽しみになる。 長い時間をかけて各々の人生について語り合った分科会。九州メンバーの研究発表会に意見交換。私は夜の懇親会担当。実にやりがいのあるポジション。

唯一の壁は I can't speak English。仮装した九州サークル乙姫軍団に合わせて参加者が舞い歌う。学生時代以来の文化祭気分を味わう。

IC と出会って 15 年。様々な思い出。中国問題研究ではコンビニや居酒屋で中国名の名札が付いた店員にインタビューを受けてもらったり、北朝鮮問題研究では人から人の紹介で、在日朝鮮会館での会合に招いてもらうなどの機会を得た。これらは IC 活動で得た体験であることは間違いない。

なぜサークル活動を続けるのか？私は世界中の人と仲良くしたい。勉強や研究は世界の一員である役目と思っている。(旧 AFL)が来福した際、亡母と娘と出迎えに行ったことがある。母は90歳にして初めてケニアやインドネシアの若者にハグをもらい、一方英語が苦手な娘は親指と人差し指を重ねてハート型を作り『サランヘヨ』と言うと、４人の AFL が同じハートを作って『サランヘヨ～！』と返してくれた。

『サランヘヨ』とは韓国語で『愛する』愛 see。私は IC 会員で良かったと思った。恩師井原伸允氏に感謝。

事務局からのお知らせ

例年同様８月下旬に、会員の皆様宛に今年度(令和３年度)の会費納入のお願いを発送予定ですのでよろしくお願い申し上げます。

なお、これに併せて、本年の 10/23(土)、24(日)に開催される「IC 国際フォーラム」のご案内を同封させていただく予定でおります(本号の兼松理事の記事をご参照ください)。